

群馬県立二葉高等特別支援学校 学校評価一覧表（令和8年度版）

（様式）

羅 針 盤			関連・連携 する 校務分掌 等	方 策	点検・評価		達成度	達成状況の分析	学校関係者評価	次年度の課題
評価対象	評 価 項 目	具 体 的 数 値 項 目			自己 評価	外部アン ケート等				
Ⅰ 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えていますか。	○通信等で情報発信を行い、生徒の活動状況(学習面や行事)が分かると、保護者の80%以上が満足している。 ○学校のホームページを月1回以上更新し、保護者の80%以上から肯定的な評価を得ている。	・教務部 ・各学習集団 ・寮務部	○年2回の授業参観週間を設ける。 ○学校通信「青嵐」や学校ブログ、各課程通信や寄宿舎だより等を通して、日頃の学習や寄宿舎での生活の様子を分かりやすく伝える。						
	2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	○交流及び共同学習について、80%以上の保護者が子どもにとって有用であると感じている。 ○ボランティア登録者が授業に入ることについて、80%以上の保護者が子どもにとって有用であると感じている。	・生徒指導部 ・教務部 ・各学習集団	○ワイルドナイツスポーツプロモーションや高崎女子高等学校吹奏楽部等との交流を行う。 ○ボッチャやeスポーツ大会への参加、パース大学とのeスポーツ等による交流に取り組む。 ○地域のボランティアと協力しながら、読み語りや貼り絵等の授業を行う。 ○交流及び共同学習やボランティア登録等を通して、本校の教育に関心を持って協力していただける支援者を増やす。						
Ⅱ 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	○外部からの相談者の80%以上が相談への対応に満足している。	・専門アドバイザー ・教務部 ・進路指導部	○本校のセンター的機能の役割や取組等をホームページや学校説明会等で発信する。 ○相談内容に応じて、センター的機能の担当者から適切な人選を行って対応する。ケースによっては外部専門家と連携をしながら進めていく。						
Ⅲ 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	○すべての教員が、必要に応じて、ICT機器を活用して指導することができる。 ○一人一人の学習及び生活の状況について、「個別の指導計画」を基に教員間、教員と寄宿舎指導員間で確認及び検討する機会を年3回以上設けている。	・教務部 ・研修部 ・各学習集団 ・寮務部	○係を中心にICTに係る情報を集約し、その情報に基づいた最新アプリの使い方等の研修を行うことで、授業の中でICT機器を積極的に活用できるようにする。 ○定例の課程会議や学年会議等で生徒の情報交換を行い、担当する教員間で統一した指導ができるようにする。 ○保護者面談の結果や生活指導目標を基に担任と寄宿舎指導員間で情報交換を行う。						
	5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	○自分が実施した研究授業に対する指導助言等を受けて、80%以上の教員が指導方法の改善を行っている。	・研修部 ・各学習集団	○校長の授業観察の際に、当該教員以外の教員にも積極的に参加するように促したり、教員相互の研究授業に取り組むよう促したりすることを通して、自身の授業を振り返り、授業改善に活かす。						
Ⅳ 健康や安全の確保に努めていますか。	6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	○生徒が健康、安全に過ごすことができるように対応していると保護者の80%以上が安心感を得ている。 ○教室前の花壇の整備を80%以上の教員や保護者が行っている。	・保健部 ・生徒指導部 ・養護教諭 ・各学習集団 ・渉外部 ・寮務部 ・事務部	○感染症対策として、手洗いや消毒を徹底する。また、隣接する二葉特別支援学校や群馬整肢療護園と感染症情報を共有し、学校全体の予防意識を高める。 ○各学習集団が植栽や有毒植物の除去等、教室前の花壇の整備を行う。 ○保護者と連携して校内の除草を行い、学習環境を整える。 ○「いじめ防止対策委員会」を設置し、いじめの未然防止、早期発見及び早期対応等を組織的かつ実効的に行う。						
	7 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	○危機管理意識の向上のため、教職員全員によるヒヤリハット事例、その蓄積及び分析した内容を共有する機会を年3回以上設けている。	・各学習集団 ・教務部 ・保健部 ・寮務部	○ヒヤリハット事例や事故事例を連絡掲示板や医療的ケア委員会を通じて情報共有したり、朝会で報告したりして共通理解を図る。また、保健部が中心となり、事例を分析し、未然防止に必要な環境整備や指導方法の改善に努める。						
Ⅴ 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	8 キャリア教育の視点から、指導内容を整理して体系的な指導を行っていますか。	○現場実習(就業体験・施設体験)にかかわる卒業後の生活を意識した進路指導の内容について、生徒や保護者の80%以上が満足している。	・進路指導部 ・寮務部	○キャリア教育全体計画や3年間の進路指導の取り組みに関する教職員の研修を実施し、外部と連携した支援を行う。 ○進路相談箱及び施設見学や実習等を依頼する施設、新規事業所等のパンフレットやリーフレット等を置き、玄関ロビーの進路コーナーの充実を図る。また、保護者や教職員への適切な情報提供を行うことで進路に対する共通理解を深める。 ○面談や保護者向けの進路相談会等の中でキャリア教育全体計画に基づいて説明し、学校と家庭の連携・継続的支援を進める。						
	9 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	○生徒の80%以上が市町村の福祉課や相談支援事業所等の支援機関と連携している。	・進路指導部 ・各学習集団 ・寮務部	○保護者のニーズを把握し、サービス担当者会議や個別のケース会議等において情報交換を積極的に行う。 ○保護者と協力してよりわかりやすい「サポートブック」や「生徒実態表」を作成し、実習や移行連絡会、卒業後の施設での生活に活用していく。 ○相談支援専門員との情報共有から卒業後の進路について検討を図る。						